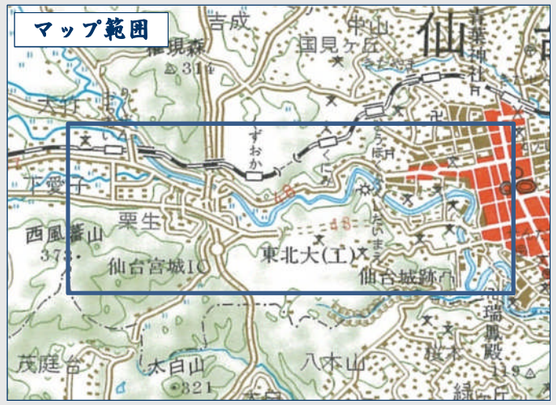
関山街道さんぽマップ

全５葉のうち（その１）
〔八幡･川内亀岡～折立･郷六〕



制作／関山街道フォーラム協議会
土の道部会
協力／みやぎ街道交流会

【縮尺】おおむね1:25，000（4cmで約1km）
500　0m　500　1000　1500

〔関山街道さんぽマップについて〕

1）このマップは、八幡地区から関山峠を越えた区間までの関山街道沿線の歴史などの地域資源を探訪出来るように作成したものです。（なお、関山峠を越えた区間からは、今後作成することを検討しています。）
2）各地区で活動する団体が作成したそれぞれのマップ等を参考に統一的な様式でとりまとめたものです。

【参考資料】

「歴史探訪　関山街道を歩く」（平川新編集、2009年）
「仙台領の街道」（高倉淳著、2006年）
「宮城地区雑記控（増補版）」（宮城地区郷土史探訪会、2012年）
「杜の散歩道　仙台市北西部散策ガイド」
（八幡地区まちづくり協議会、2007年）
「折立地域マップ～魅力ある史跡と故事～」
（平成22年折立市民ｾﾝﾀｰ　マップ制作講座）

〔関山街道フォーラム協議会について〕

1）関山街道フォーラム協議会は、関山街道沿線で活動している市民活動団体･企業･行政等が、地域の自然、歴史、文化、風土等の豊かな資源を掘り起こし、活用しながら地域活性化を目指している団体です。
2）部会を設けて、「土の道部会」はマップ作成や探訪会等の事業を、「鉄の道部会」は関山街道と並行して走る仙山線に焦点をあてた事業に取り組んでいます。

【地図の複製承認】
･この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の20万分1地勢図及び2万5千分1地形図を複製したものである。（承認番号　平25　東複、第50号）
･うち拡大図は、仙台市長の承認を得て、同市発行の1万分1都市計画基本図を複製したものである。（承認番号　平成26年1月10日　H25都計都第1531号）
･第三者がこの地図を複製する場合は、国土地理院長、仙台市長の承認が必要である。

（平成26年1月制作）

C区域拡大図（新落合橋付近）

C7 元文の碑（げんもんのひ）

元文2（1737）年の六字名号「南無阿弥陀仏」の道標。「右八大くら　左八あやし」の道案内と旅の無事を祈る碑。「仏･佛」字の「イ+西+国」の表記がインドの釈迦を指す?。

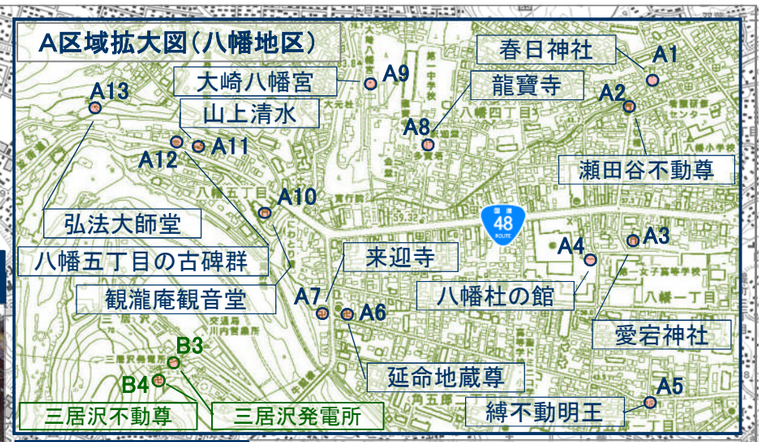
C6 落合（おちあい） 上の茶屋･下の茶屋（うえのちゃや･したのちゃや）

定義･作並街道分岐点で、明治中期開業。道路の上が「落合上の茶屋･花坂家」、下が「落合下の茶屋･針生家」で、旅人の休憩･道案内･癒しの場･草履販売等で繁盛、仙山線開業で客が減り廃業し、それぞれ昭和54･55年に解体された。

A 8 龍寶寺（りゅうほうじ）

真言宗。伊達家祈祷所として一門格に列せられていた。創建年代不詳で、伊達家始祖朝宗が常陸中村に開基したと伝わる。その後伊達家に従い、政宗の代、岩出山から当地に落ち着いた。

A区域拡大図（八幡地区）



A 9 大崎八幡宮（おおさきはちまんぐう）

慶長12（1607）年藩祖正宗により創建。勧請には、中世の福島伊達時代から始まる成島八幡が米沢を経て仙台へのルートと、もう一つは葛西大崎地方の大崎八幡の系統があり、この2つの流れが仙台で一つになったといえる。社殿は入母屋造り本殿と拝殿を石の間で繋いだ権現造り、安土桃山時代の遺構として国宝指定。

A区域

D区域拡大図（郷六･折立地区）

D 6 建武の碑（けんむのひ）

建武3（1336）年の碑3基が郷六城跡の入口にあり、鎌倉末期から南北朝時代、14世紀以前のこの地の生存者達からの贈り物。この地区最古で、1基は大梅寺に移されている。

B 2 亀岡八幡宮（かめおかはちまんぐう）

伊達氏祖先が梁川に鎌倉鶴岡八幡を勧請の際、亀が現れ社名の由来に。天和3（1683）年4代綱村が現在地に社殿を造営。石段は335段。芭蕉も参詣。仙台空襲で社殿など全て焼失。

D 7 郷六城跡（ごうろくじょうあと）

鎌倉時代の城跡。国分氏の武将･郷六大膳の居城。段丘上の典型的な平城。葛岡城とは広瀬川を挟んで指呼の間（国分二城が伊達に対抗）、政宗に降ってから上愛子に移封された。

D 4 郷六御殿（ごうろくごてん）

4代藩主綱村が貞享4（1687）年に設けた別荘。仙台城裏山の西、広瀬川沿の風光明媚な三層の楽寿園。180本の梅園･子女の遊芸･風雅･狩猟基地の桃源郷。古井戸が現存する。

関山街道散歩マップの解説（八幡・川内亀岡～折立・郷六）

1)街道沿線の神社仏閣の歴史資源などをA～Dのモデルコースに分け、それぞれに番号を付して、おもて面の地図上の位置・番号と対比しています。
2)各コースとおおむねの地区名は次のとおりです。
　Aｺｰｽ（八幡地区周辺） Bｺｰｽ（川内亀岡地区周辺）
　Cｺｰｽ（郷六地区周辺） Dｺｰｽ（向郷六・折立地区周辺）
3)なお、下記の資源は、地図面に記載しています。
　A8（龍寶寺）、A9（大崎八幡宮）、B2（亀岡八幡宮）
　C6（落合上の茶屋・下の茶屋）、C7（元文の碑）
　D4（郷六御殿）、D6（建武の碑）、D7（郷六城跡）

◆ 各モデルコースの距離

Aコース（ASバス停⇒A1～A14⇒AEバス停） 約5.5km
Bコース（BSバス停⇒B1～B4 ⇒BEバス停） 約2.5km
Cコース（CSバス停⇒C1～C8 ⇒CEバス停） 約3.5km
（C4松尾神社を除く）
Dコース（DS⇒D3～D9⇒DE） 約4.0km
（D1最上古街道・D2化石の森・D9開山堂・D10折立山を除く）

※1　各コースはモデルとして設定したものです。
※2　距離は地図上で測定したおおむねの値です。
※3　各コースの起・終点は近隣のバス停としています。
※4　地図上のバス停名の頭の記号は次のとおりです。
　例）AS（Aコースの起点）、BE（Bコースの終点）

A１
かすがじんじゃ
春日神社
戦国時代、仙台を領していた国分氏の末裔・玄性坊実永が仙台藩2代藩主忠宗公より菩提寺である覚性院の再興を許された際に氏神として祀られた。

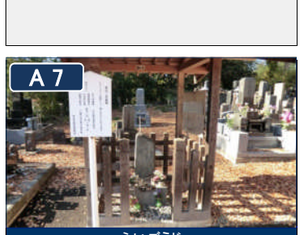
A２
せたやふどうそん
瀬田谷不動尊
この近辺は仙台城築城の折、政宗公が和泉国堺（大阪府堺市）より呼び寄せた石工が住居したことから石切町と呼ばれ、その守り本尊として建立されたものと伝わる。

A３
あたごじんじゃ
愛宕神社
由緒については不明であるが、政宗公によって創建されたと伝わる。古来より「火伏せの神」・「防火鎮火の神」として広く尊崇されている。

A４
はちまんもりのやかた・なかじまちょうこうえん
八幡杜の館・中島丁公園
旧天賞酒造店蔵を復元した八幡杜の館と旧天賞苑の中島丁公園は、地域の文化活動の拠点・地域住民の憩いの場となっている。市民団体の八幡地区まちづくり協議会が管理・運営している。

A５
しばりふどうみょうおう
縛不動明王
寛政年間にこの近辺の河岸に地蔵像が漂着し、住民が縄を巻きつけたところ災禍が続発したため、縛不動明王として祀ったのが始めとされる。

A６
えんめいじぞうそん
延命地蔵尊
詳しい建立年代等は不明であるが、この地に居住した旗本御足軽五十人衆の守り神として崇敬を集めていたものと伝わる。



A７
らいごうじ
来迎寺
浄土宗、北山の昌繁寺末寺。寛永年間、昌繁寺2世良信恵伝の開山。境内のモクリコクリの碑（延元2（1337）年）は、百日咳に効く伝説があり削跡が残る。

A10
かんりょうあんかんのんどう
観瀧庵観音堂
仙台三十三観音の第二番札所で、龍寶寺門徒観瀧庵は明治に廃寺となり、観音堂が残った。三居沢に瀧が見えることから名付けられたという。延宝2（1674）年の石碑がある。本尊は千手観音。

A11
さんじょうしみず
山上清水
弘法大師があまり水に恵まれなかったこの地を訪れた際、錫杖を突き清水を沸かせたという伝説があり、山上清水と呼ばれ仙台藩の名水として有名であった。

A12
はちまんごちょうめのこひぐん
八幡五丁目の古碑群
明和8（1771）年の山神碑、天明5（1785）年の南無遍照金剛碑、文化2（1805）年の蔵王権現碑など、大小36基の石碑がある。平成9年にこれら石碑群を整理し、鳥居が建てられた。

A13
こうぼうだいしどう
弘法大師堂
享徳2（1453）年米沢の龍寶寺住職澄海法印の建立と伝わる。境内の伊豫八十八塔の石碑群は、嘉永2（1849）年、四国通路八十八ヶ所霊場めぐりになぞらえて建立された。

A14
もんじゅぼさつどう
文殊菩薩堂
慶長8（1603）年、政宗公の家臣・嶺八兵衛藤原長秀が政宗公より鷲巣山一帯を拝領し、代々家に伝わる文殊菩薩像を開山安置したといわれている。卯年生まれの守り本尊といわれる。

B１
ほうらくいんかんのんどう
法楽院観音堂
元は仙台城の場所にあり、国分氏の守り仏。仙台三十三観音の第一番目として第一観音と呼ばれ親しまれており、巡礼として仙台城に近いことからと伝わる。寺はなく観音堂のみ。本尊は聖観音。

B３
さんきょざわはつでんしょ
三居沢発電所
明治21年、宮城紡績会社が紡績機用水車を利用し、東北初の発電を実施。現在も日本最古の水力発電所として発電をしている。建屋が平成11年国登録有形文化財指定された。

B４
さんきょざわふどうそん
三居沢不動尊
寛永11（1634）年の石碑があり、江戸時代より信仰があったと推測される。境内奥に13mの大滝があり、修験者が滝に打たれながら修行をしていたと伝わる。

C１
くずおかじょうあと
葛岡城跡
国分氏の武将・馬場氏の居城。広瀬川と葛岡山に囲まれた段丘上の要害。政宗に降って秋保の馬場に移されたという。跡地は土塁と氏神が残り、民家2軒と田畑となっている。

C２
きゅうおいせばし
旧生瀬橋
現生瀬橋の300m下流、綱木川と広瀬川の合流地点に架けられたレンガ造りの橋。名取郡生出村と宮城郡広瀬村を結ぶ橋で、両村の地名から命名。ｱｲｵﾝ台風（1948年）で流出し橋脚の一部が露出。

C３
よつやせき
四ツ谷堰
政宗が河岸段丘で水利の悪い仙台の生活用水を賄うため、ﾄﾝﾈﾙ・水路等を利用して給水させた。堰名は取水堰付近に民家4軒あったからや谷を4つ越えるからとも云う。工業用水路として現役。

C４
まつおじんじゃ
松尾神社
国分氏の武将・郷六大膳が永禄8（1565）年に京都から勧請。のち伊達家の庇護のもと彫刻の壮麗な社殿が建築され、藩主の参詣・遊覧・狩猟等の社。松尾権現社とも称し、神仏を安置。

C５
かいぶんいりみちしるべ
回文入り道標
安政6（1859）年の碑で、正面は「従是右定義迄四里廿一丁　左二口街道作並街道」。右側面は仙代庵の回文「みな草…花の作並」の作並温泉案内と左側面は定義如来の縁起由来が刻まれ貴重。

C８
きゅうおちあいばし
旧落合橋
定義・作並街道分岐点で、サイカチ川が広瀬川に落合・合流する郡境の橋（現在の新落合橋）。作並・最上への往還の重要地点なのに、古来頻繁に流出した。ｱｲｵﾝ台風で流出し橋脚の一部が露出。

D１
もがみふるかいどう
最上古街道
古く伊達氏の時代以前より、名取から千代城（仙台城）・青葉山御裏林・郷六・折立・愛子・湯元・二口・最上に通じる古街道。青葉山の蒙古の碑はその道標。伊達氏の時代は郷六御殿への直通路。

D２
かせきのもり
化石の森
150～900万年前の太古は仙台が海底であったことを物語る貝殻化石群が地層の褶曲した化石層として2ヵ所に露出。竜ノ口峡谷に繋がる生きた地学教室。化石層が地球の神秘を語りかけている。

D３
さんきょざわはつでんしょしゅすいぜき
三居沢発電所取水堰
三居沢発電所へ取水し、青葉山をトンネル（明治38年通水トンネルが完成）で通水。仙台の科学技術・産業発展に広瀬川・郷六が大いに寄与したことを物語る。

D５
うなねじんじゃ
宇那禰神社
国分氏家臣・郷六大膳が勧請した氏神。広瀬川の水流・用水を祀ったウナ（雲南権現）神社？。郷六氏の上愛子への移封に伴い、慶長4（1609）年芋沢に遷座したが、今も祭礼等継承している。

D８
おりたていっちょうめのこひぐん
折立一丁目の古碑群
この地には昔の宗教・結・講等共同体を偲ばせるさまざまな多くのモニュメント群がある。石山の地名があり、良質の石材が産出されたので石碑群・石工が多くある。

D９
だいばいじ・かいざんどう
大梅寺・開山堂
伊達家の香華寺。雲居国師が瑞巌寺退山を請願したが、陽徳院の要請で綱木に留まることを条件に許された。ｸﾘｽﾁｬﾝと称される五郎八姫の守護が目的の開山。国師の終焉の地とし、蕃山々頂に塔所・奥の院を設け、今は開山堂と称す。

A10
おりたてやま
折立山
折立地名の由来（屏風・衝立を立てた形）の山。作並・大倉の旧往還の茶屋の前で、一里塚の役割。藩政以前に山頂に弥勒寺があり、ﾄﾝﾃﾞﾗ山と称された神聖な山。戦前は第二師団演習地という。